

9. 試験機の検定及精度

10. 同上に関する製作工場の監督法研究の方法

4. 乃至 10 の問題は London Congress までに充分討議すべきこと。

(以 上)

追而本年 3 月 31 日付 C 分科擔當 R. Barba 氏より C 分科關係の議題にして 1935 年ロンドン總會に提出を希望するものは其題目、氏名及住所を本年 10 月 1 日迄に通知願度旨來信あり、他分科も之に準ずるものならんと想像仕候に就ては上記各項に關係ある論文御所持の方は取急ぎ筆者宛御提出願度希望仕候 (1932-6-28)

京都帝國大學工學部

西 原 利 夫
近 藤 泰 夫

橋 橋 改 築 工 事 概 要

准 員 田 中 義 康

橋橋は國道三號線中宮崎市第一の繁華街たる、橋通りと中村町とに跨り大淀川に架設せられたる橋梁である。

此附近は古の橋の小戸にして橋の位置は小戸の渡しと稱し昔は渡舟を以て交通の連絡をして居た、始めての橋梁は明治 18 年大淀の人福島修齊翁獨力を以て幅 3 間、長 201 間の木桁橋を架設したるものである。後縣に於て明治 21 年に寫眞の如き橋に架替へて以來 40 有余年間其儘の姿となつて居た。然るに此間本縣の産業文化は徒に發達し宮崎市の勃興目覺しく交通量は激増し爲に幅員の狹隘と橋體の危弱とを痛感して居た處、昭和 2 年 8 月の洪水に流失され、茲に於て災害復舊と國道改良とを合せ接續道路擴張工事を兼ね 今回の改築工事を見るに至つたのである。今其概要を示せば次の如くである。

橋 梁

位 置： 宮崎市橋通より中村町に至る

路 線 名： 國道第三號線

河 川 名： 大淀川

橋 長： 385.45 m (212 間)

有效幅員： 16.36 m (9 間)

内 兩側歩道各 2.73 m (1.5 間)

中央車道 10.90 m (6.0 間)

勾 配： 縱斷勾配は $\frac{1}{100}$ と $\frac{1}{200}$ との拋物線を連絡し横斷勾配は歩車道共 $\frac{1}{100}$ とす

有效面積： 6 306 m²

内 兩側の歩道各 1 052 m²

中央の車道 4 202 m²

橋の高さ： 平水面上 9.14 m

有效徑間： 24.24 m のもの兩側に各 4 連

32.73 m のもの中央に 5 連

構造	様式：鉄筋コンクリート無段拱橋
橋	臺：コンクリート左右2基
橋	脚：鉄筋コンクリート全12脚
橋	面：歩道コンクリート舗装 車道アスファルト・ブロック舗装
側	壁：鉄筋コンクリートを主體とし外面は人造石洗出し仕上とす。
高	欄：鉄筋コンクリートを主體とし笠石及小柱並に橋脚上部は花崗石張とし其他は人造石洗出し仕上とす。窓には橋拱の半鍔鋼製格子を用ひ深緑色ペイント塗布。
給水装置	左右兩岸より各104mの處高欄の一部に待避所4箇所を設け之に各給水装置をなす。
親	柱：鉄筋コンクリートを主體とし花崗石張とす、高さ5m一邊の長さ1.82mを有する角柱體にして100ワットの電燈12個を取付く。
燈	柱：上下流共各橋脚の上部高欄上に設け鉄筋コンクリートを主體とし裏面人造石洗出し仕上とす。100ワットの電燈4個を取付く、燈柱數28本、燈數112個、點燈装置の金具は親柱及燈柱共ブロンズを用ひガラスは乳色を用ふ。

取付道路

接續道路工事は橋通り五丁目迄中村町二丁目迄となるも茲には災害工事區域にして今回橋梁と同時に被功したる橋通り一丁目及中村町一丁目迄の分のみを示す、因に擴張前の道路幅は橋通り5間、中村町3間であつた。

位置及區間	左岸は橋の口より橋通り一丁目迄、右岸は橋の口より中村町一丁目迄	
延	長：438m (橋梁を含まず)	
勾配	縦断：橋梁線通りより $\frac{1}{100}$ を10m 置き $\frac{1}{100}$ にて在來路盤に取付く。 横断：歩車道共 $\frac{1}{100}$ とす。	
面積	歩道：1620m ² 車道：5445m ²	
幅	員：全幅16.00m 内 歩道兩側に各2.73m 車道中央に10.00m	
構	造：歩道をコンクリート・ブロック車道は瀝青乳劑エムラス舗装とし、歩道と車道との境にL字形境界側溝を設け其下地下に下水管を埋設して側溝より來る雨水並に一般家屋より來る汚水の排除に備ふ。	
工費：橋梁	下部構造工事費	927 878 圓
	上部 "	285 301 "
	附帶工事費	10 050 "
	セメント費	180 811 "
	鐵筋費(上部主要筋のみ)	98 580 "
	小計	879 620 "
道路		38 002 "
	セメント費	6 016 "
	小計	45 278 "
移轉費		109 013 "
雜費		80 005 "
合計		1 121 676 "

以上に要したる従業職工人夫延人員は167 780人であつた。尙此外橋通り二丁目より五丁目迄及中村町二丁

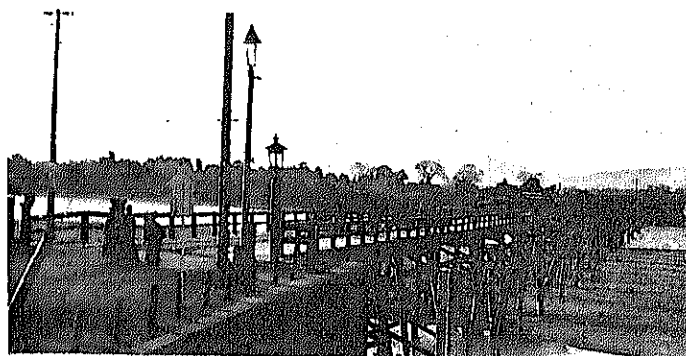
目は目下工事中にして工法職員等一丁目に等しく之に要する工費 118,424 圓，即ち總工費 1,240,100 圓である。

工 事	舊 橋 流 失	—昭和 2 年 8 月	
	本 省 查 定	—同 年 10 月	
	内 務 大 臣 認 可	—昭和 5 年 1 月	
	工 事 着 手	—同 年 3 月	
	起 工 式	—同 年 4 月	
	竣 功	—昭和 7 年 3 月	
主要材料	セメント	小野田セメント	48,000 樽
	鐵筋	徑 6~28 mm	1,032 觔
	半 鑄 鋼		12,015 觔
	石 材	岡山縣北木島産花崗石	168 m ³
	洗 砂 利	大淀川産	24,876 m ³
	洗 砂	〃	12,510 m ³
	アスファルト・ブロック	厚 25 mm	4,201 m ²
	人造石洗出し		2,963 m ²
	コンクリート		28,525 m ³
	瀝青乳劑・エムラス		40,000 l
碎 石	大分縣津久見産	310 m ³	

(以 上)

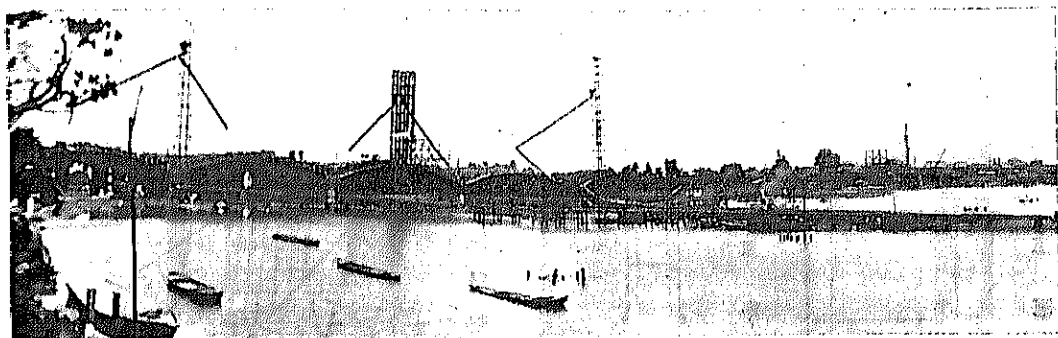
寫眞第一

橋樑 (流尖前)

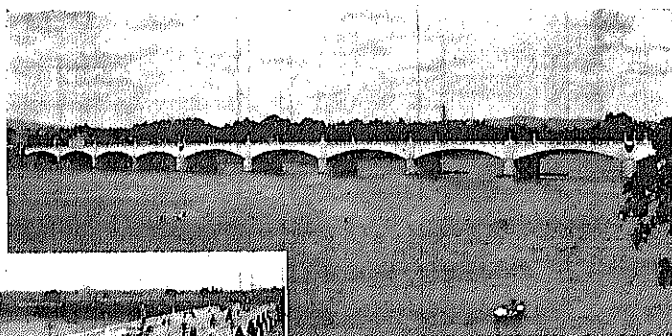


寫眞第二

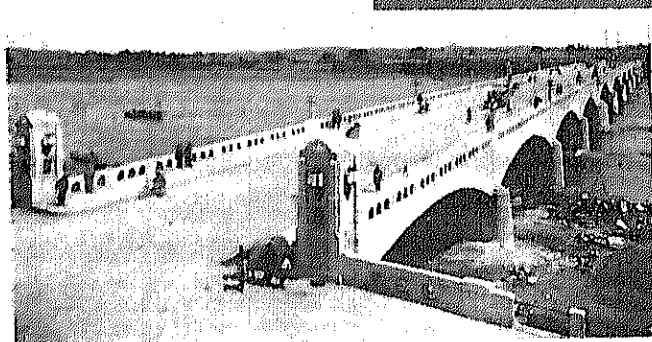
工事中の橋樑



寫眞第三 竣工せる橋樑

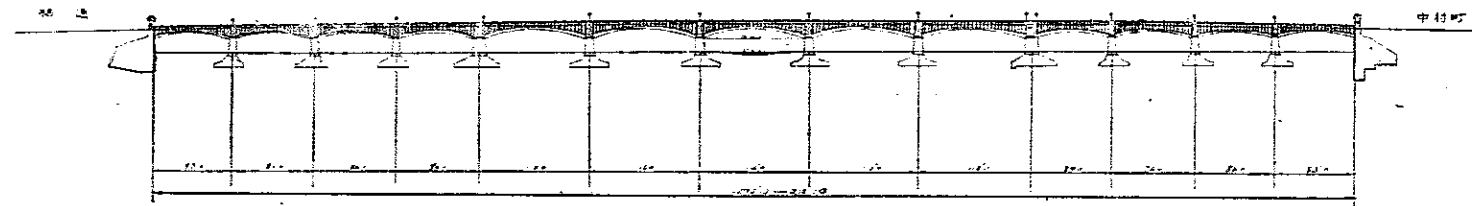


寫眞第四 同上

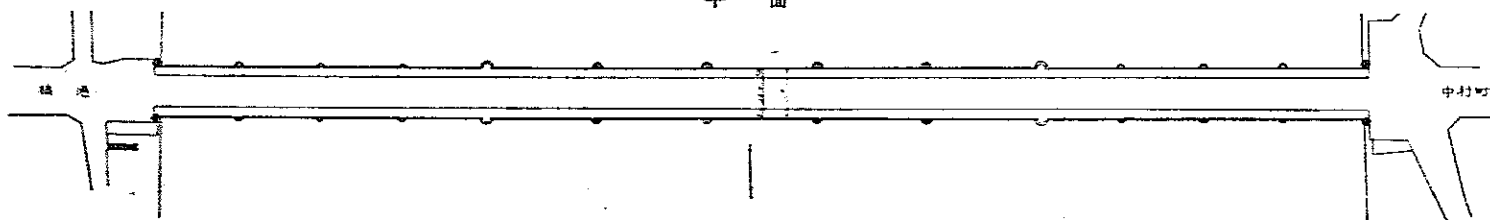


橋樑一般圖

側面



平面



橋樑附近平面圖

